

令和 6 年 5 月 16 日現在

機関番号：32672

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K17626

研究課題名（和文）体育分野における教師の欲求支援行動を引き起こす背景要因

研究課題名（英文）Background and antecedents of teachers' need-supportive teaching behaviour in physical education

研究代表者

寺岡 英晋（Teraoka, Eishin）

日本体育大学・スポーツ文化学部・助教

研究者番号：60874493

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、体育分野において望まれる教師行動として、自己決定理論に基づいた「欲求支援・阻害行動」に着目した。本研究の目的は、体育教師の欲求支援・阻害行動を体系化し、その程度を測定する日本語版尺度を作成し、妥当性と信頼性を検討することであった。また、教師の個人特性が欲求支援・阻害行動に与える影響も調査した。全国の公立中学校の体育教師を対象にしたオンライン調査とインタビュー調査を実施し、結果として、妥当性と信頼性のある尺度を作成することができ、教師の自律性が欲求支援行動に関連することが示された。また、職場での良好な対人関係が教師行動に影響を与えることも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、体育教師に望まれる教師行動を体系化し、その測定尺度を作成した点にある。これにより、体育における教師行動の理論的基盤が強化された。また、教師の個人特性と教師行動の関連性を明らかにすることで、教師行動の改善を意図した教師教育プログラムの開発につながると考えている。社会的意義としては、本研究が明らかにした教師の欲求支援行動の重要性は、生徒の主体性や運動意欲を高める教育環境の構築に寄与すると思われる。特に、良好な職場の人間関係が教師行動に影響を与えることが示されたため、現場での組織運営や職場環境の改善が求められ、これにより、より質の高い体育授業が保証されることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study focused on desirable teaching behavior in physical education (PE) based on self-determination theory, specifically need-supportive and need-thwarting teaching styles. The aim was to systematize these teaching styles in PE teachers, develop a Japanese version of a measurement scale, and evaluate its validity and reliability. Additionally, the study investigated how teachers' personal characteristics influence need-supportive and need-thwarting teaching styles. An online survey and interviews were conducted with PE teachers from public junior high schools across Japan. The results indicated that a valid and reliable scale was successfully created, and that teachers' autonomy was related to need-supportive teaching styles. It was also found that good interpersonal relationships in the workplace influence teaching behaviour.

研究分野：スポーツ教育学

キーワード：教師行動 体育 中学校 自己決定理論

1. 研究開始当初の背景

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止策による学校の休校や登校制限は生徒の主体性や自律性の重要性をさらに浮き彫りにさせた。それに関連して、体育分野では、いかに教師が生徒達の「運動に対する意欲」を育む環境を提供できるかが重要な課題であった。

(2) これまでの先行研究によれば、自己決定理論 (Ryan & Deci, 2017) の枠組みに基づき、生徒達の主体性や運動に対する意欲を高めるためには基本的心理欲求 (Basic Psychological Need: BPN) の充足が重要であることがわかっていった。さらに、BPN を充足させる体育授業中の教師の行動として基本的心理欲求の支援行動を促進させ、反対に阻害行動を抑制することが重要であるとされていた。

(3) 基本的心理欲求の支援・阻害行動を、子供達の主体性や運動に対する意欲につながる教師行動の枠組みとして捉え、効果的な教師行動を実践できる体育教師の育成が今後求められている。しかしながら、基本的心理欲求の支援・阻害行動を実践している教師の特徴についてあまり知られていないために、体育教師が身に付けるべき資質や能力について検討できていないことが重要な課題であった。

2. 研究の目的

(1) 体育教師に望む行動として、基本的心理欲求の支援・阻害行動 (以下、「欲求支援・阻害行動」と略す) を体系化し、その程度を測定する尺度を作成することが第一の目的であった。体育授業中の支援・阻害行動を測定する尺度として、既に、Escriba-Boulley et al. (2021) によって、Situations-in-School-Physical Education questionnaire (SIS-PE: 学校体育における教師の対応尺度) が英語で開発されていたため、本研究では SIS-PE の日本語版を作成し、尺度の妥当性と信頼性を検討した。

(2) 第二の目的としては、欲求支援・阻害行動に影響を与える教師の個人特性について質問紙とインタビュー調査の両面から検討することであった。教師行動を規定する要因のひとつとして、教師自身が持つ行動の志向性が挙げられる。加えて、教師自身の仕事に対する自律性、有能感、同僚や上司、生徒との関係性など、職場における基本的真理欲求の充足度が教師行動にも影響を与えているのではないかと仮説を立てた。

3. 研究の方法

(1) 質問紙調査については全国の公立中学校の体育教師を対象に、オンラインでの調査を実施した。最終的に、欠損値を含むデータを除いた 295 名 (男性 225 名、女性 70 名) が分析対象となった。第一の目的達成のため、日本語版 SIS-PE について、多次元尺度法による内的妥当性と確認的因子分析による因子的妥当性を検証した。

(2) 教師の個人特性を規定する変数として、一般的因果律志向性尺度東邦版 (Tobe et al., 2016) と日本語版基本的心理欲求の充足・不満尺度 (Nishimura and Suzuki, 2016) を使用し、欲求支援・阻害行動との関連を調査した。また、インタビュー調査には量的調査への参加者の中から 10 名が参加した。インタビューの内容は、生徒の主体性や運動への意欲を高めるために大切にしている教師自身の教育観や信念、授業設計や職場の環境などについて感じていることを質問した。

4. 研究成果

(1) -1 日本語版 SIS-PE の内的妥当性を検討するため、多次元尺度法を用いて、各質問項目が SIS-PE の特色である円形構造 (図 1) にどの程度適合しているか分析した。分析の結果、理論上想定されていた領域とは異なる座標データが 12 項目で得られたため、それらの項目を削除した。その後、改めて分析を行った結果、統計的に良いモデルの適合度が得られた。

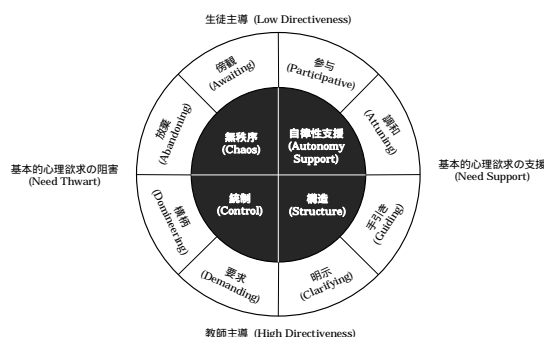


図 1 欲求支援・阻害行動の構成

(1)-2 SIS-PE の原版 48 項目を含む 8 因子および 4 因子のモデルと、上述の内的妥当性の検討結果を考慮して 12 項目を削除した修正版 8 因子および 4 因子のモデルの合計 4 パターンについて、確認的因子分析を行い、モデルの適合度を比較した。その結果、修正版 8 因子モデルが相対的に最も良い適合を示した。そのため、今後、日本語版 SIS-PE で得点を算出する際には、原版から 12 項目を削除した 8 因子モデルを用いて分析することが推奨される。

(1)-3 日本語版 SIS-PE の信頼性の分析については、「参与」以外の因子で内的整合性が確認された。しかし、「参与」において内的整合性が低かったことは原版 SIS-PE と同様であったため、日本語に翻訳したことで生じた問題ではなかったと推察される。よって、本尺度の内的整合性を高めるためには、原版での項目内容の修正や項目数の増加を検討する必要があると考えられた。

(2)-1 教師行動と個人特性の関係について、欲求支援・阻害行動の下位因子を従属変数、各個人要因の変数を独立変数とした回帰分析を行なった結果、日常生活における個人の行動の志向性が、欲求支援・阻害行動に重要な影響を与えている可能性が示された(表 1)。特に、日常生活における様々な場面において自律的に行動をしようとする教師は、体育授業中においても生徒たちの欲求支援行動に従事し、阻害行動を抑制する傾向が見られた。反対に、外発的に動機づけられる傾向、および動機づけが生じにくい傾向にある教師ほど、欲求阻害行動を起こす可能性が高いことが示唆された。

(2)-2 上述の量的調査とインタビュー調査の結果から、職場での良好な対人関係が教師行動に影響を与える重要な要因であることが示唆された。量的調査では、職場での関係性欲求への不満が統制行動と正の関連があることを示した。また、インタビュー調査では、職場における相談のしやすさや、同僚および管理職からの理解と支援を享受することが、教師自身への主体性に繋がることを示された。したがって、職場での良好な対人関係が欲求支援行動に従事するきっかけになり得ると推察された。

表 1 個人特性と教師行動との関係

	自律性支援			構造			統制			無秩序					
	β	SE	t	β	SE	t	β	SE	t	β	SE	t			
自律性欲求充足	.09	.08	1.13	.00	.08	.04	.05	.08	.68	-.05	.07	-.78			
有能感欲求充足	.05	.08	.67	.10	.08	1.30	-.01	.08	-.17	.14	.07	1.95			
関係性欲求充足	.10	.07	1.55	.07	.06	1.15	.05	.07	.71	-.03	.06	-.56			
自律性欲求不満	.11	.06	1.78	.12	.06	1.95	-.01	.06	-.19	-.06	.05	-1.21			
有能感欲求不満	-.07	.07	-1.03	-.12	.07	-1.67	-.01	.08	-.16	.14	.06	2.11			
関係性欲求不満	.21	.08	.25	-.01	.07	-.07	.18	.08	2.15	.09	.07	1.31			
自律志向性	.03	.01	6.53	..	.04	.01	9.39	..	.00	.01	.04	-.02	.01	-3.75	..
コントロール志向性	.01	.01	1.66	.01	.01	.73	.02	.01	3.82	..	.02	.01	3.21	..	
動機づけ喪失志向性	-.01	.01	-.92	.01	.01	1.80	.02	.01	3.95	..	.02	.01	3.17	..	
R^2	.27			.36			.22			.23					

**: $p < 0.01$; *: $p < 0.05$

< 引用文献 >

- Escriva-Boulley, G. et al. (2021). Adopting the situation in school questionnaire to examine physical education teachers' motivating and demotivating styles using a circumplex approach. *International Journal of Environment Research and Public Health*, 18 (14):7342.
- Nishimura, T., & Suzuki, T. (2016). Basic psychological need satisfaction and frustration in Japan: controlling for the big five personality traits. *Japanese psychological research*, 58(4), 320-331.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2017). *Self-determination theory: basic psychological needs in motivation, development, and wellness*. Guilford Press.
- Tobe, M. et al. (2016). Characteristics of motivation and their impacts on the functional outcomes in patients with schizophrenia. *Comprehensive psychiatry*, 65, 103-109.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Eishin Teraoka, Felix Enrique Lobo de Diego, David Kirk	4. 巻 30
2. 論文標題 Examining how observed need-supportive and need-thwarting teaching behaviours relate to pupils' affective outcomes in physical education	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 European Physical Education Review	6. 最初と最後の頁 105 ~ 121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1356336X231186751	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Eishin Teraoka, Yoshinori Okade
2. 発表標題 Antecedents of need-supportive and need-thwarting styles among Japanese secondary school physical education teachers: The influence of basic psychological need satisfaction and frustration at work
3. 学会等名 AIESEP International Conference 2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Eishin Teraoka, Yoshinori Okade
2. 発表標題 Relationships Between Causality Orientations and Adoption of Need-Supportive and Need-Thwarting Styles among Physical Education Teachers
3. 学会等名 The European Conference on Educational Research
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寺岡英晋・岡出美則
2. 発表標題 中学校体育教師における一般的因果律志向性および基本的心理欲求の充足・不満が欲求支援・阻害行動に及ぼす影響
3. 学会等名 日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------